

## 安倍首相に憲法を変える資格はない！

薦められて読んだカントの「永遠平和のために」に、「行動派を自称する政治家は、過ちを犯して国民を絶望の淵に追いやって、責任は転嫁する」「戦争自体は、とり立てて特殊な動因を必要としない。名誉心に鼓舞されて戦争は起きる」との一節があります。224 年も前の 1795 年のカントの指摘が今、眼前に現れているということは、人間はちっとも進歩していないようにも見えます。

しかしいつの時代にも、どんなに弾圧されても、必ず戦争に抵抗し反対する闘いが組織されてきました。今年宮澤弘幸生誕 100 年であるとともに、ワイマール憲法誕生 100 年でもあります。先の大戦で骨の髄から思い知った平和の尊さを根底から否定し、敵視して暴走を続ける安倍政権に対する徹底的な反撃と、それに同調する層への歴史と道義を踏まえた誠実な呼びかけを継続させていくべき時です。(福島 清)



# 破綻した「捏造攻撃」⇒高裁は公正な判決を！

植村裁判 札幌・東京の高裁口頭弁論を傍聴して 水久保文明・事務局



「捏造記者攻撃」は断固、許さない——。左＝札幌高裁に向かう植村さんと弁護団（10月10日）。右＝小雨の中、東京高裁に向かう植村さんと弁護団（10月29日）（植村裁判を支える市民の会HPから）

ブルータスよ、お前もか——。

行政のみならず司法までもが事実から目を逸らす姿に、慄然とすることを禁じ得ない。

「捏造記者」と週刊誌で攻撃され、ネトウヨらから家族を狙うと脅迫され、新しい職場に着任することすら断られた元朝日新聞記者・植村隆さん。名誉回復裁判で「私は捏造記者ではない」と言い続けてきた植村さん。

植村さんの書いた慰安婦問題報道が、捏造でなかった証拠が余るほど出てきたにもかかわらず、それらに目をつぶり札幌、東京の両地方裁判所は植村さんの訴えを退けた。歴史を捏造し従軍慰安婦はいなかったと主張する、あの人たちのイデオロギーを斟酌した判決だった。

裁判は札幌、東京ともに高裁に移った。ジャーナリストの櫻井よしこ氏らを訴えた札幌訴訟は10月10日に結審となり、麗澤大学客員教授の西岡力氏らを訴えた東京訴訟は10月30日に高裁で始まった。その二つの法廷を見てきた。以下、その報告を行いながら、この裁判の持つ意味を考えてみたい。

## ◇札幌高裁第3回口頭弁論

広域に大きな被害をもたらした台風19号が関東地方に接近する10月10日、私は新千歳空港に降り立ち、札幌高裁へ。裁判所には早い時間から傍聴券を求める人の列が出来ていた。傍聴希望者のチェックを兼ねて、通し番号札が配られる。

事前説明で「今日の傍聴席は80席になっています」とアナウンス。配られた番号札はなんと81枚だという。一人、あふれるわけだ。傍聴券を求める会議室の列は

ざわめいた。すると高齢者の人が「私が辞退します」と申し入れた。これで“一件落着”となった。

当然、法廷は満席となった。前もってこの日に結審することが伝えられており、植村さんが最終陳述を行い、弁護団がそれを補強した。

植村さんと弁護団は①一審判決は法理と従来の判例に反していること②櫻井よしこ氏の言説には誤りだけでなく、変遷と矛盾があること③植村氏が書いた記事は捏造ではなかったこと——を詳細に立証した。

そのうえで植村さんは改めて「捏造はしていない。櫻井氏は、取材もせずに私の記事が捏造だと断じた。こういうことが許されるなら、報道・言論の自由が冒されることになる。公正な判決を下してほしい」と訴えた。札幌高裁はこの日で結審となり、判決言い渡しは来年2月6日と指定して終わった。

午後は、札幌市教育会館で韓国から来日したメディアのチェック活動を継続的に行っている「民主言論市民連合」のみなさんの活動を聞く場がつくられ、来日した代表から話をきいた。夜は（私は参加できなかったが）裁判の報告集会が行われた。

## ◇東京高裁第1回口頭弁論

東京訴訟の高裁の第1回弁論は10月29日に開かれた。こちらは札幌と違い、法廷はかなり空席が目立っており、傍聴券の“争奪”はなかった。札幌と東京の運動の違いなのだろうか。少し寂しい気がした。

この日、植村さんは新たな証拠として従軍慰安婦として日本軍に連行された、金学順（キムハクスン）さん取材時の録音テープを提出した。西岡氏らの主張は金さんは姦生に売られており、植村さんが書いた記事

はそのことに触れておらず、ねつ造であったという根拠の一つにしている。ところが、録音テープには姦生のことは一言も触れられていない。取材相手が語っていないことを書かなかったことをもって、「捏造」呼ばわりした方が実は捏造であったのだ。

植村さんと弁護団はこのことを強調。「取材相手が語っていないことを書くことはできない。それをもって捏造と決めつけた根拠は崩れた。西岡氏の主張は誤りだった」と強調した。この日はこの問題についてのやり取りが行われ、高裁は次回の期日を12月16日に指定、場合によってはこの日を結審とすることを示唆した。

午後は、参議院会館の会議室で報告集会が行われた。集会では録音テープのさらなる詳しい内容が関係者から報告された。さらに現在制作中のドキュメント映画「標的」のダイジェスト版が初めて公開された。この映画は、元RKB毎日放送のディレクター・西嶋真司さんが手がけているもの。植村裁判を追いかけ、関係者の証言などを盛り込みその背景に迫っている。

西嶋さんは「植村さんを攻撃するその背景に、朝日新聞がある。彼らは、朝日を攻撃するために慰安婦問題を持ち出してきた。実はこの裁判の標的は歴史を正しく伝えようとする報道にあるといえる。あくまでもそこにスポットを当てた映画にしたい」と語った。

◇◇◇

あの人たちはなぜ執拗に植村さんを攻撃してきたのか。一言でいえば、従軍慰安婦はなかったことにしたいのである。憲法を変えて戦前帰郷を謀ろうとする人たちにとって、従軍慰安婦や南京大虐殺は“目の上のたん瘤”だからだ。これらは戦争の悲惨さを象徴的に表すものだからだ。あの人たちはひたすら、それを消し去ろうとしているのである。

問題は、その分かりやすい動きを司法が追認していることである。前述のように、植村さんの書いたものは捏造ではなかった。取材したことを正確に報道した

会では、植村裁判闘争を支援するための募金集め、「週刊金曜日」の定期購読や広告掲載などの応援活動を繰り広げていく方向だ。16日現在で1500万ウォン(約134万円)の募金が集まった。結成の集いで挨拶した李富栄氏は、これまで日本に対して文句は言っても、韓国の人々と連帯しようとする植村さんのような日本人

の立ち上げを宣言する集いを開いた。会の名称は「植村隆を考える会」。韓国語では「ウエムラカシルセンガクハヌンモイム」で、略してウセンモだ。「ハンギョレ」創刊当時の副社長、任在慶氏、元「東亜日報」記者、李富栄・自由言論実践財団理事長、辛仁幹・元梨花女子大学校長、咸世雄神父ら12人が呼びかけ人に名を連ねている。結成の集いの会場となった「ハノイの朝」の経営者は元漢陽大学校教授で韓国の民主化に多大な貢献をした言論人、故李泳蔚氏の娘だ。



結成の集いに参加したウセンモのメンバー。(撮影/文聖姫)

文聖姫、編集部  
植村は、1991年に書いた元日本軍「慰安婦」に関する2本の記事が元で右派論客らから「捏造」と攻撃された。神戸の女子大学教授への転職はダメになり、「娘を殺す」と脅迫までされた。現在、東京と札幌で「捏造」と誹謗中傷した右派論客と出版社を相手に名誉毀損訴訟を闘っている。

だけのものであった。むしろ、「西岡力氏は植村攻撃の論拠にしていた韓国の新聞記事を改ざんしていた。櫻井よしこ氏もTVニュースキャスターだった当時、『強制連行された慰安婦』と述べていた」(市民の会ホームページ) ことに象徴されるように、「捏造攻撃」してきたほうが、間違っていたのである。

にもかかわらず、裁判所(地裁)は植村さんの請求を却下した。これは言い換えると「間違いを容認した」ことと同義である。刑事裁判に置き換えると、分かっているながら冤罪を認める判決を下したことになる。この司法の動きは、改憲策動とリンクしていると考えすることは決して不自然ではない。司法よお前もか、と言いたくなる所以である。

植村裁判は、歴史を変えようとする人たちとのたたかいであり、言論・報道の自由を守るたたかいでもある。その意味において、この裁判は負けることがあってはならない。市民の運動で裁判所を包囲したい。

植村さんに案内されて、3年ほど前にソウル市の繁華街の一つ、明洞(ミョンドン)から10分ほど歩いた小高い丘のふもと小さなスペースに行った。そこにはかつて従軍慰安婦として連行された女性たちの名前が刻まれた大理石があり、その悲惨さを伝えている。一角に英語、中国語、日本語そして韓国語で「記憶されない歴史は繰り返される」と書かれた、たみ1畳ほどの大理石が置いてある(本会発行の「国家権力犯罪に“時効”はない」パンフ22号、「週刊金曜日」第1244号=写真下右を参照)。

この一行の持つ意味は大きい。ネオナチを連想させる日本会議の台頭。改憲をしゃにむに推し進めようとするアベ首相。この国を俯瞰したとき、歴史が消され忌まわしい歴史が繰り返されようとしている——そう考えるのは私だけだろうか。

植村裁判の詳細は以下の「植村裁判を支える市民の会」のホームページへ。

<http://sasaerukai.blogspot.com/>

## 「植村隆を考える会」が発足



→ 韓国では民主化闘争を闘った人々が「植村隆を考える会」を発足させた。週刊金曜日、2019.10.4号

## 「野党共闘」で安倍政権打倒！

最近の政治状況を見ていると、「自民党・安倍内閣いろいろと、よくぞやってくれた。」です。ここまでひどい状況にならなかつたら、野党共闘は成立していません。その意味において、という限定つきですが、戦争法（安保法制）のとき、連日といっても過言でないほど国会に行きました。おかげさまで国会行動のあとの「行きつけの居酒屋」もできました。そのとき、国会の夜空に「野党は共闘」という声が流れてきました。それが国政選挙で実現するなど思ってもみませんでした。市民の、庶民の抵抗は結実したのです。

今度は「野党で政権」の番です。これも本気で実現したいものです。

「たたかう野党」こそ国民の支持ひろがる―共産党もともに



衆院議員、保守系無所属  
**中村喜四郎**さん

野党共闘を強く

77歳衆議院初選出、建設相や自民の要職をつとめ、いまは無所属議員として活動する中村喜四郎議員、自他ともに認める「保守政治家」が、強い野党づくりの力をいれています。その思いは、甲斐もありません。安倍（三）首相の「護の気、権威主義」も、自民党の「法の尊厳」も、軽視する人物が党内からどんどん出て要職につく。菅原一秀経済産業相、河井克行法務相が相次いで公職選挙法違反疑惑で辞任しました。やっつけ合っている、でも政権与党だからと大丈夫だ、と国民の目を無視する政治になっています。権力のおごりですよ。このままではこの国の民主主義は壊れていままです。野党が勝つことで政治を変えるしかありません。今の自民党は『選挙権威主義』の党になっています。選挙に勝つためには何でもありです。『消費増税先送り』だとか、北朝鮮ミサイル問題での『国難突破解散』だとか…。安全保障の問題でも、アメリカの『核のカサ』に入っていれば日本は安全だという時代は終わっています。日米安保だけではなく、東アジアまで視野を広げて安全保障を議論する必要があります。野党がちゃんとたたかう態勢を見せることで国民の支持は戻ってきます。今年の6回の知事選で、埼玉と岩手で野党が勝ちました。新潟知事選は競り負けましたが、それが土台になって参院選の新潟選挙区（一人

Mさんからこんなメールが届きました。「その通りだ！」と読んでいたら、11月10日付「しんぶん赤旗」日曜版に思わず拍手したくなる記事がありました。

\*

「安倍首相のもとで、自民党はすっかり変わってしまいました。もはや保守ではありません。『権威主義』の党、『権威主義』の政権になりました。

法律を無視、軽視する人物が党内からどん

どん出て要職につく。菅原一秀経済産業相、河井克行法務相が相次いで公職選挙法違反疑惑で辞任しました。

やっつけ合っているということは誰でもわかっている。でも政権与党だからと大丈夫だ、と国民の目を無視する政治になっています。権力のおごりですよ。

このままではこの国の民主主義は壊れていままです。野党が勝つことで政治を変えるしかありません。

今の自民党は『選挙権威主義』の党になっています。選挙に勝つためには何でもありです。『消費増税先送り』だとか、北朝鮮ミサイル問題での『国難突破解散』だとか…。

安全保障の問題でも、アメリカの『核のカサ』に入っていれば日本は安全だという時代は終わっています。日米安保だけではなく、東アジアまで視野を広げて安全保障を議論する必要があります。

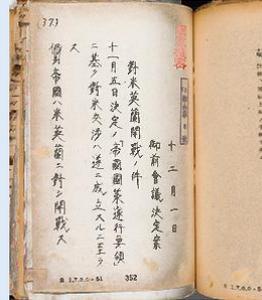
野党がちゃんとたたかう態勢を見せることで国民の支持は戻ってきます。今年の6回の知事選で、埼玉と岩手で野党が勝ちました。新潟知事選は競り負けましたが、それが土台になって参院選の新潟選挙区（一人

<コラム> 冤罪忘れるな！<sup>⑧</sup>

## 無責任極みの御前会議

1941年11月5日

この日、天皇臨席の御前会議が開かれ、最後の対米交渉案と帝国国策要領が決まった。表向き、和平条件をかかげ、腹の内、対米開戦へ準備完了。半月前に発足したばかりの東条内閣が、戦争への暴走・最初の一步であり、追って12月1日御前会議での「12月8日開戦の断」へと至る。この間、11月26日には真珠湾奇襲艦隊が密かに出港、戦場へと向かっている。



十二月一日  
 御前会議決定案  
 対米英蘭開戦ノ件  
 十一月五日決定ノ帝國  
 國策遂行要領ニ基ク對  
 米交渉ハ遂ニ成立スルニ  
 至ラス  
 帝國ハ米英蘭ニ對シ開戦ス

御前会議は、憲政上の位置づけがなく、「明治憲法下で国家の重大な緊急事件について天皇出席のもと、重臣、大臣などが催す會議」（広辞苑）とされるが、同憲法に明文規定はない。つまり、東条内閣に集約される戦争への暴走、国家冤罪の引き起こしは、闇仕掛けの中での闇決定だったことになる。しかも事態が反転すると、居並んだ誰もが臨席しただけ列席しただけと言い逃れる、無責任体制の極みとなっていた。

◆ ◆ ◆  
 「スパイ冤罪事件」の真相に迫る決定版（本会編）

『引き裂かれた青春—戦争と国家秘密』花伝社刊

第1部=冤罪の真相 第2部=冤罪事実の条条検証  
 資料編=判決全文、軍機保護法全文、年表  
 特別添付=重要事項索引

申し込みは本会事務局までFAX・メールで（1面上部題字横に掲載）。送料税込み2300円。後払い。

区）では野党が勝ちました。これが大事です。

次の総選挙の小選挙区で、野党が40議席増やせば間違いなく与野党伯仲です。大変な時代が来ます。

私は今回、野党の側に来て、立憲民主や国民民主と、共産党の橋渡し役として汗をかくつもりです。野党の勝利と政権交代をめざし、大いに汗をかいて尽力したいと思っています」。

\*

中村喜四郎さんと聞けば、ゼネコン汚職事件で逮捕・失職した方です。2005年に国政復帰していますが、自民党を離れ無所属で活躍しています。茨城7区で当選14回。長年自民党政治を見てきた経験を踏まえての安倍政治批判は説得力があります。（福島 清）